

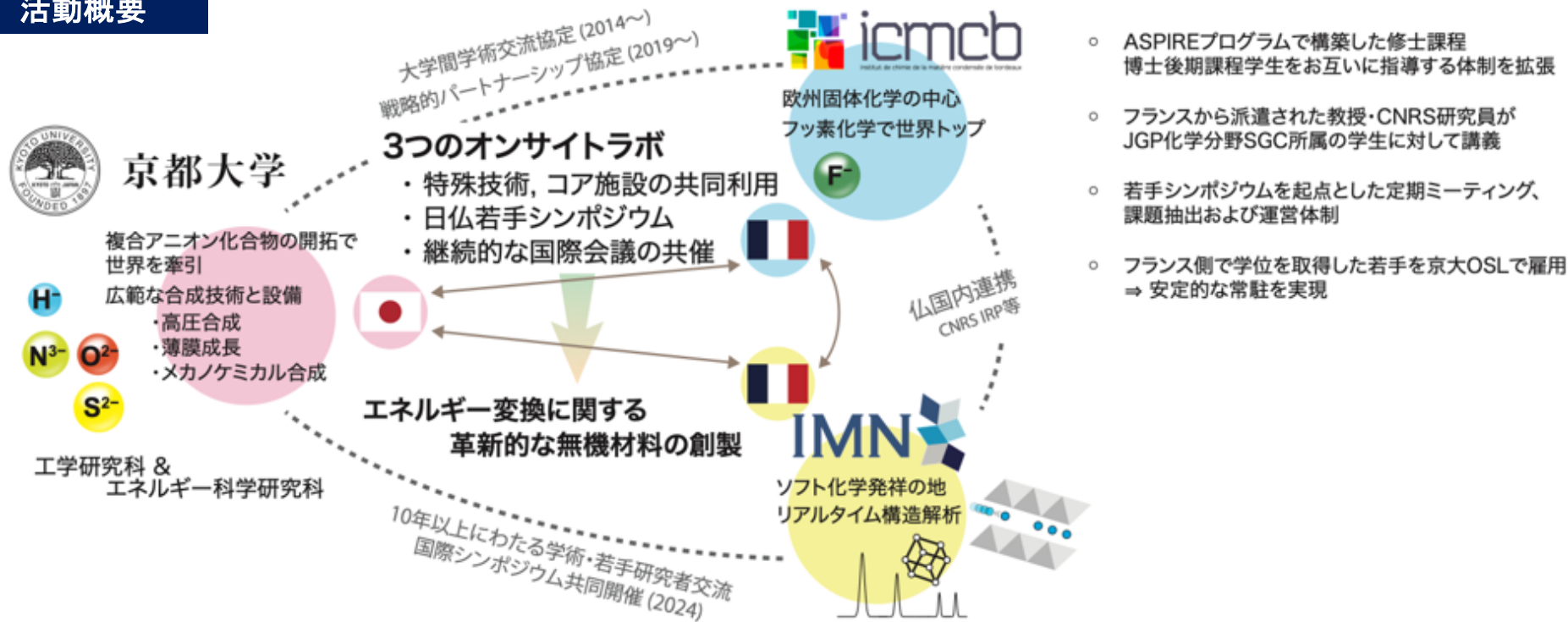
基本情報

- ◆ 認定年度: 2025(令和7)年
- ◆ 設置時期: 2025(令和7)年11月
- ◆ 実施部局: 工学研究科・エネルギー科学研究科
- ◆ 相手方機関: ボルドー大学ICMCB(フランス)・ナント大学IMN(フランス)
- ◆ 設置タイプ: クロスバウンド型
- ◆ 設置目的: 革新的機能をもつ無機エネルギー材料の開発
- ◆ 設置場所: 京都大学(日本・京都)、ボルドー大学ICMCB(フランス・ボルドー)、ナント大学IMN(フランス・ナント)
- ◆ 活動内容: 京都大学とフランスのトップ研究機関との間で優秀な学生と若手研究者の交換と教育を促進する拠点の形成

活動による大学全体への波及効果

- 日本とフランスのトップレベルの材料化学研究者の共同研究によるエネルギー材料の技術革新
- 若手研究者、学生交換を通じて、国際社会に貢献する次世代をリードする若手研究者の育成
- 欧州における京大ブランドの構築

活動概要



2025年度の主な活動実績

① 仏・ナントでのOn-site Laboratory開所式

- 2026年1月26日に、仏・ナント大学IMNにて、本オンサイトラボの開所式を実施。式典には本学から運営責任者の陰山洋 工学研究科教授と松本一彦 エネルギー科学研究科教授に加え、河野泰之 副学長や横峯健彦 工学研究科副研究科長、欧州拠点副所長が参加。このほか、JSPSストラスブール研究連絡センター長、JSTパリ事務所長、そしてフランス側からはシジル・エイモニエ ボルドー大学ICMCB所長、フローラン・ブーシェ ナント大学IMN所長、ティエリー・ロワゾーCNRS化学部門科学担当代表、シルヴィ・ルノー ボルドー大学副学長、オリヴィエ・グラセ ナント大学副学長をはじめとして、日仏双方から学術関連の要人が多数出席。
- 翌日に研究会を開催。3研究機関から合計13名の研究者が講演し、続くパネルディスカッションにて無機エネルギー材料開発にむけた共同研究方針や人材育成体制を確認・議論した。




開所式での集合写真

② 研究活動と人材交流

- 2025年12月に固体化学の国際会議 ISSSC2025を日本で開催。IMNとICMCB所属の研究者も招待講演者として日本へ招聘。
- IMNの博士課程学生およびICMCBの博士研究員を京都大学にて受け入れた(それぞれ3ヶ月と2ヶ月)。
- IMNから3名のCNRS研究員を京都大学に招聘(それぞれ1ヶ月, 2ヶ月, および3ヶ月)。
- 本学の大学院生を3ヶ月間IMNに派遣。

2nd International Symposium on Solid State Chemistry



ISSSC 2025


256 Participants

32 Invited Speakers

Japan 176
China 23
France 16
United States 10
United Kingdom 9
Germany 8
Korea 6
Hong Kong, China 4



185 Posters



ISSSC2025の概要